

2018 年 3 月下旬以降、海外からの輸入症例を契機として沖縄県で麻疹（はしか）患者数の増加が報告されており、県内外での感染拡大が懸念されています。これを受けて、厚生労働省が広く注意喚起を呼びかけている状況です。

今回は麻疹（はしか）についての概要と予防策についてお話しします。



### ●麻疹（はしか）について

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。麻疹ウイルスの感染経路は、**空気感染、飛沫感染、接触感染**で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その**感染力は非常に強い**と言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100% 発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

### ●麻疹（はしか）の症状

感染すると**約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2~3 日 38℃前後の熱が続き、一時下降しますが、再び 39℃以上の高熱と発疹が出現します。**肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。その他の合併症として、10 万人に 1 人程度ですが、麻疹ウイルスに感染後、数年後に**亜急性硬化性全脳炎（SSPE）**と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。



### ●麻疹（はしか）の予防について

麻疹は感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。

**予防接種（ワクチン）が最も有効な予防法です。**

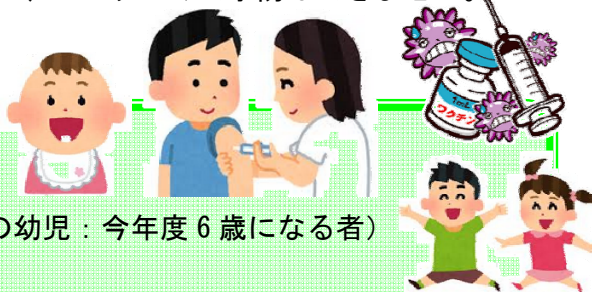
#### ★可能な限り早めのワクチン接種が推奨される者

##### 【定期接種対象者】

- ・ 第 1 期定期接種対象者（1 歳児）
- ・ 第 2 期定期接種対象者（小学校入学前 1 年間の幼児：今年度 6 歳になる者）

##### 【定期接種対象者以外】

- ・ 1 か月以内に海外旅行・国内旅行を予定している者（可能な限り 2 週間以上前に接種を済ませる。旅行直前に接種する場合は、接種後 5~14 日の体調変化に注意が必要。）
- ・ 医療関係者（救急隊員、事務職員等を含む）
- ・ 保育関係者
- ・ 教育関係者
- ・ 不特定多数の人と接触する職業に従事する人
- ・ 近隣で麻疹患者の発生が認められる、生後 6-11 か月児（緊急避難的な場合に限る）
- ・ 0 歳児の家族
- ・ 麻疹抗体価陰性あるいは低抗体価の妊婦の家族
- ・ 麻疹抗体価陰性あるいは低抗体価の麻疹含有ワクチン接種不适当者の家族
- ・ 2 歳以上第 2 期定期接種対象期間に至る前の幼児で、麻疹含有ワクチン未接種あるいは接種歴不明者
- ・ 小、中、高、大学、専門学校生等で、麻疹含有ワクチン未接種あるいは 1 回接種あるいは接種歴不明者



#### \* ワクチンの接種不适当者

- ・ 明らかな発熱を呈している者
- ・ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ・ 本剤の成分によって重篤なアレルギー症状を呈したことがあることが明らかな者
- ・ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者及び免疫抑制をきたす治療を受けている者
- ・ 妊娠していることが明らかな者



#### ●ワクチン接種時の注意点

- ・ 接種不适当者に該当しないことを確認する。
- ・ 麻疹含有ワクチンの接種歴は記録で確認する。（記憶はあてにならない。接種の記録がなければ、受けていないと考える。）
- ・ 妊娠出産年齢の女性は、接種前に妊娠していないことを確認し、ワクチン接種後約 2 か月間は妊娠しないように注意する。
- ・ 1 歳以上で 2 回の麻疹含有ワクチンの接種記録がある者、検査診断された麻疹の罹患歴がある者、既に発症予防に十分な麻疹抗体価を保有していることが明らかな者は受ける必要はない。
- ・ 麻疹ワクチンは**生ワクチン**ですので、初回接種の場合は、ワクチンの中に存在する弱毒化された麻疹ウイルスが体内で増殖する時期（接種後 5~14 日）を中心として、**約 20%に発熱、約 10%に発疹が見られることがある**。2 回目接種の場合は、これらの症状出現頻度は低い。
- ・ 接種不适当者に該当する場合は、麻疹抗体価を確認し、免疫状態を把握しておく。その結果、麻疹抗体価が陰性あるいは低い抗体価であった場合は、人が多く集まる場所や麻疹流行国に行くのを避け、家族や周りの者が必要回数である 2 回の予防接種を受けて、麻疹に対する免疫を獲得しておく。



#### ●麻疹（はしか）を確実に予防するためには、1 歳以上で 2 回の予防接種が必要です！！



100万回のハグよりも、  
2回のはしかワクチンを。



発疹、発熱などの麻疹のような症状がある場合は、麻疹の疑いがあることを医療機関に電話等で伝え、受診の要否や注意点を確認してから、その指示に従ってください。また麻疹の感染力は非常に強いと言われています。医療機関へ移動される際は、周囲の方への感染を防ぐためにもマスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

